令和４年９月２９日

第１回総合教育会議記録

石巻市教育委員会

令和４年度第１回石巻市総合教育会議記録

◇開会年月日　　令和４年９月２９日（木曜日）　　午後　４時００分開会

午後　４時４７分閉会

◇開催の場所　　庁議室

◇出席委員等　６名

市長	齋藤正美君	教育長	宍戸健悦君
委員	阿部邦英君	委員	梶谷美智子君
委員	杉山昌行君	委員	大和千恵君

◇欠席委員　なし

◇説明のため出席した者の職氏名

（市長部局）

総務部長	阿部金也君	総務部次長	冨澤成久君
総務課長	木下智由君	総務課長補佐	七宮義幸君
総務課主幹（併任）	戸田正樹君	総務課主査（併任）	平塚悦子君

（教育委員会事務局）

事務局長	石井透公君	事務局次長	鈴木　憲君
事務局次長（教育・文化芸術振興担当）	今野順子君	教育総務課長	今野良司君
学校教育課長	福田光一君	学校管理課長	大山健一君
生涯学習課長	林　伸晃君		

◇協議・調整事項

（１）学力・体力向上対策について

（２）不登校児童生徒の心のケアについて

（３）その他

午後　４時００分開会

○総務課長（木下智由君）　ただいまから令和４年第１回石巻市総合教育会議を開催いたします。

本日の会議の司会は、私、総務部総務課長の木下が務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

開催に先立ち、報道機関の方より写真撮影、録音の申出があります。本件につきましては、石巻市総合教育会議運営要綱第８条第５号のただし書の規定により、議長が会議に諮り、出席者の了解を得るものとされておりますので、議長であります市長からお諮りいただきたいと思います。

○市長（齋藤正美君）　それでは、皆様にお諮りいたします。

報道機関の方より写真撮影及び録音の申出がありましたが、石巻市総合教育会議運営要綱第８条第５号ただし書の規定によりまして、許可することとしてよろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○市長（齋藤正美君）　それでは、報道機関の皆様におかれましては、写真撮影、録音を許可することとさせていただきます。

○総務課長（木下智由君）　傍聴人の皆様におかれましては、会議の妨げとなるような行為がないよう御協力をお願いいたします。

市長挨拶

○総務課長（木下智由君）　それでは、初めに、齋藤市長から挨拶をお願いいたします。

○市長（齋藤正美君）　本日は、大変お忙しいところ御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

令和４年度石巻市総合教育会議を開催するに当たりまして、一言御挨拶をさせていただきます。

本会議は、本市の教育の現状や課題に対する認識を共有し、重点的に講ずべき施策等について、協議・調整を行うことにより、今後の施策の推進につなげる目的で開催するものです。

平成27年度第１回の開催から数えて８年目の開催となります。各事業の取組、方針等について、委員の皆様と協議を重ねながら、教育に関する共通認識を深めていきたいと考えております。

さて、本日の会議では、「学力・体力向上対策について」及び「不登校児童・生徒の心のケアについて」の２つを議題とさせていただきました。学力・体力向上対策、そして、不登校児童・生徒の心のケアについては、どちらも本市の教育行政において大変重要な課題でございます。現在、教育委員会においては、改善に向けた様々な事業や対応策を実施いただいているところでございます。

本日は、委員の皆様からの忌憚のない御意見を頂戴いたしまして、今後の施策に取り入れ、教育行政をさらによい方向へと推進してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

（１）学力・体力向上対策について

○総務課長（木下智由君）　続きまして、次第３の協議・調整事項に入らせていただきます。

ここからの会議の進行につきましては、市長にお願いいたします。

○市長（齋藤正美君）　それでは、会議の主催者であります私のほうで議長を務めさせていただきたいと思いますので、御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

では、（１）学力・体力向上対策についてを議題といたします。

学校教育課から説明をお願いいたします。

○学校教育課長（福田光一君）　それでは、初めに、「石巻市学力向上プランについて」説明をさせていただきます。カラーの冊子をご覧願います。

この石巻市学力向上プランは、令和３年度から９年間の見通しを立てたプランになります。本来であれば、新年度当初に御説明すべきところを、日程の調整がつかず、本日になってしまったことを最初におわび申し上げます。

では、内容について説明させていただきます。13ページを御覧ください。

誰一人取り残さない「学力向上」を掲げ、このプランでは、９年間を３期に分けて目標を設定し、実践と改善を図り、最終的には、全国学力・学習状況調査の平均点を常に全国平均以上にすることを目指します。

今年度から、第１期、下の段になりますが、学力に対する意識改革の期間とし、まずは、平均点で県の平均を上回れるような実践に取り組んでおります。全国学力・学習状況調査の平均正答率を、県平均、あるいは、全国平均以上というのは、あくまで数値目標であり、このプランの目的は、生涯にわたって学び続ける人材の育成であります。つまり、学力を学ぶ力と捉えて、子供たちに主体的に学ぶ姿勢を身につけさせることが大事であると考えています。

表紙に戻っていただき、子供たちに主体的に学ぶ力を身につけさせるためには、まずは、学力に対する我々の意識を変えること、特に、学校の教員が学力に対する意識を変える必要があり、例えば、教え過ぎたり、全員に一律に同じ宿題を出したり、ペーパーテストの点数だけで成績をつけたりという、これまでの固定概念を変える必要があります。

そこで、考えを変えるキーワードとして、子供たち一人一人が仲間と共に自分の力でとして、第１期の３年間の取り組みを始めております。

７ページを御覧ください。

このプランを実践するに当たり、学力向上推進委員会を設置しました。学識経験者、ＰＴＡや子ども保育課の代表の方に構成員になっていただき、広い分野から御意見が聞けるようにしました。このプランの最大の特徴は、年２回、小・中学校全学年で国語、算数・数学の標準学力調査というペーパーテストを実施します。そして、学力の定着具合と課題を確認します。課題に対して対策を立てて、計画を実践することになりますが、その進行管理と客観的な評価、助言をいただくのが、この学力向上推進委員会と捉えていただきたいと思います。また、学校だけで学力を向上させるのは難しく、家庭の協力が必要になります。

そのために、石巻市学力向上プラン～ダイジェスト版～というカラーのリーフレットを今後、保護者向けにアレンジして配布することについて、９月５日に開かれた第２回目の学力向上推進委員会で議論され、現在、保護者向けにこのリーフレットを作成中でございます。

学力向上プランの大まかな説明は以上ですが、具体的に、石巻の子供たちの学力の状況について説明をさせていただきます。

このプランの３ページを御覧ください。

これは、令和３年度の全国学力・学習状況調査の結果一覧表になります。上が国語、下が算数・数学の結果ですが、小・中ともに全国平均には及んでいません。

しかしながら、例えば、色がついている前回比というところの国語の小学校を御覧いただきたいと思います。平成31年度と令和３年度を比較すると、全国は１ポイント上げたのに対して石巻市は２ポイント上げています。同じく、中学校では、全国がマイナス８下げたのに対して石巻はマイナス６で抑えており、成果は少しずつ出ているというふうに思われます。しかし、下の算数・数学では、全国との差が縮まらず、小学校については、差が開いてしまっていることが課題であると捉えています。

この実態を踏まえて、今年度行われた令和４年度の結果について説明させていただきます。

資料１を使って説明させていただきます。

資料１の①の表を御覧ください。

これは、令和４年度のテストの平均正答率の全国と県との比較の表になります。石巻は③の欄になります。小・中学校ともに理科を含めて全教科全国平均を下回っています。特に、算数・数学の乖離については、令和３年度と比べても、その差は縮まっておりません。

そのような中で、小学校の国語が県平均と同じになり、全般的に、国語については、年々その差が小さくなっているのは少し自信になっているところです。黄色になっている算数・数学がちょっと乖離が大きいかなというところでございます。

また、平均正答率を問題数で比較したのが②の表になります。正答率も平均で比較していることを念頭に、石巻の子供たちが何問くらいできていないのかをこの表で見てみます。

例えば、黄色になっている小学校の算数を御覧ください。算数の問題数は全部で16問です。全国は10.1問正解しましたが、石巻は9.2問です。その差は0.9問になります。中学校の数学は１問の差になります。つまり、問題数で見ると、あと１問正解すれば、全国平均またはそれ以上になるということになります。

ちなみに、中学校の数学は、平成31年度は1.4問差、令和３年度は1.2問差、令和４年度は１問差なので、問題数で見ると確実に差を縮めている状況でございます。しかしながら、その１問が大きな差であり、時間をかけないとなかなかクリアできない差であると感じているところです。

③の表については、各教科の分野、問題の形式で出来のいいところと悪かったところを表しました。

国語は○もありますが、算数・数学、理科については▼が多く、課題が多いことがよく分かると思います。

その１問の差がどこにあるのかということを検証するために、プランでも紹介しました全小・中学生を対象に国語、算数・数学の標準学力調査を実施いたしました。

２ページを御覧ください。

数字ばかりの表で申し訳ございませんが、結果的に、残念ながら、このテストにおいても、全学年全国平均を超えた教科はありませんでした。特に、マイナス５以上の差があるところに色をつけましたが、上段右側の算数・数学の小学校２年生を御覧ください。全国との差がマイナス5.6ありました。しかも、その下の活用問題はマイナス8.1で、小学校の全学年で一番差が大きかったです。５月に実施していますので、受けたのは小学校２年生ですが、内容は小学校１年生の内容になります。小学校１年生の内容ができないのは大きな問題であると感じてい

ます。

３ページを御覧ください。

ここに実際の問題を載せました。３ページの左側、問５、「つぎのけいさんをしましょう」、我々がこれまでイメージしてきた小学校１年生らしい問題で、この計算については、石巻の子供たちは90％ができており、ほぼ全国平均並みです。しかし、右の問９を見てください。平仮名ばかりで読みづらいですが、しっかり問題を読んで理解しないと答えられません。全国の正答率は70％だったのに対して石巻は50％です。

さらに、４ページ、問10ですが、文字が多く読むことすら抵抗があります。全国の正答率は58％に対して、石巻は38％でした。

ほかに間違いが多かったのは、文章問題、説明する問題、式を見て問題を作る問題などでした。つまり、石巻の小学校２年生は機械的な計算はできるが、文章を読み取って説明することができない傾向があると言えると思います。それが３年生、４年生、そして、中学生になってからも解消できないのではないかということが言えると考えております。

これらの課題を克服するために取り組んでいることについて説明させていただきます。

６ページの（３）を御覧ください。

今年度具体的に取り組んでいる内容になります。

②４月の標準学力調査の結果を基に、保護者も含めた教育相談を全小・中学校で行いました。③タブレットでできるドリルを導入し、家でもできるようにいたしました。この三者面談とドリルによって、保護者が子供たちに具体的な声がけができるようになったと好評を得ております。⑤秋田など先進地を視察してノウハウを学び、各学校に生かすために株式会社山大さんの基金を活用させていただいております。⑦教科等指導員の市内の先生方のモデルとなる事業を考えて、各学校に提案するなどの取組を行っております。

３として、今後の課題になりますが、問題を読み理解する力をつけるために、さらに重点的に取り組みたいことは読書です。石巻の子供たちの学力向上には読書の習慣が有効であり、ゲーム時間よりも読書の時間を増やすことを考えていきたいと思っています。また、教員の学力に対する意識を変えるということは、授業を改善することであり、教える授業から考える、自分で解決できる力を身につける授業を多くの教員ができるように研修を深めたいと考えております。

続けて、体力向上対策について説明いたします。

同じページ、石巻の現状についてですが、６ページの中ほど、①の令和３年度の全国体力・

運動能力・運動習慣等調査の結果一覧表を御覧ください。

色がついているところが全国値に及ばなかったところですが、小学校・中学校ともに右半分に色がついているという印象があります。表を見ますと、左側は、握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、右側は、20メートルシャトルラン、50メートル走、立ち幅跳び、ソフトボールやハンドボール投げ、中学生は持久走という種目になります。つまり、左側は子供たちがもともと持っている力の種目、右は経験値が影響する種目と捉えたとき、石巻の子供たちは、走る、投げるなどの経験を積めば、さらに記録が向上するのではないかと考えています。

令和３年度は中学校の女子以外は体力の合計が全国値を上回っています。この結果は、この調査が始まって初めてのことであり、これまで小学校で取り組んだ業間遊びやサーキットトレーニング、あるいは、中学校の体育や部活動での運動技能の指導の成果だと感じております。

７ページの真ん中、２番の現在の取組になりますが、プランの目標については、全国平均値以上を維持することというふうにしております。

その下、３、今後の課題として、学校の授業で子供たちがやる気を出して運動技能を習得しようとする授業改善に継続して取り組みます。また、石巻の子供たちの肥満傾向が高いことから、ゲームばかりに時間を使わずに、体を動かす時間、勉強する時間など、自分の時間をしっかり管理できる力を、家庭と協力して実践していきたいと考えております。

７ページのⅢに書きましたが、学力の向上と体力の向上に共通点が見られました。

まず１つ目は、授業改善です。子供たちがやる気を持つ授業、主体性の育つ授業、家庭学習に結びつく授業など、これまでの授業スタイルを改善することが、子供たちに学び方を学ばせることにつながり、それが教育委員会、学校の役目であると考えています。

もう１点目は、学校と家庭の連携です。読書の習慣、ゲーム時間の設定、食べ物に対する考え方などは、家庭の教育が大きな影響を及ぼしており、いかに連携して、子供たちを自立に向かわせるかが大切であると考えています。

この２点について、教育委員会といたしましては、子供たちのやる気はもちろん、教職員、そして、保護者の皆様にも主体的に取り組んでいただけるアイデアを提案しながら、取り組んでまいりたいと思っております。

以上で説明を終わらせていただきます。

○市長（齋藤正美君）　ただいまの説明に対しまして、御意見、感想、質問など、ありましたらお願いいたします。

梶谷委員、お願いします。

○委員（梶谷美智子君）　まず、体力向上対策についてお話しさせていただきたいと思います。

ただいまの説明から、小・中学校とも体力向上策、すごく地道な取組、継続によって少しは全国を上回ったということは本当に成果の表れと言えると思います。この小・中学校の取組に併せて、私としては、ぜひ、幼児期の体力向上対策というものも推進していってほしいと思います。幼児期は、生涯にわたって必要な多くの運動の基となるような多様な動きを獲得する大切な時期と言われています。文科省のほうからも、幼児期運動指針というのが出されておりまして、基本的な、歩く、走る、座る、転がる、はう、上る、下りるといった、体を移動する動きと、それから、用具を活用した動き、持つ、投げる、運ぶ、蹴るといった動き、こういった運動指針が出されておりまして、それらを、様々な遊びを通して子供たちが、体力、運動能力だけじゃなくて、情緒的な面ですね、例えば、意欲的な心、社会性、自立、自制、我慢する気持ち、協力、そういったものも、こういう遊びを通してそういう能力も発揮すると言われております。

ぜひ、幼児期にも体力向上対策というものをしっかり取り入れていっていただけたらなというふうに思います。

○市長（齋藤正美君）　ただいまの梶谷委員のお話はごもっともだと思います。これに対して、今、取り組んでいる状況はどうなんですか。

○学校教育課長（福田光一君）　学力向上推進委員会に子ども保育課も入っていただいており、学力と体力が比例関係にあるという結果も出ていますので、その辺を併せて、幼稚園含め保育所にも、そういう声がけを、今後続けていきたいというふうに思っております。

○市長（齋藤正美君）　分かりました。幼稚園、保育所はもちろん、そこでどういう指導をするか、しているか、どうすればいいか、その辺はしっかりとカリキュラムを組んでやることが大事だよね。

それが、市立だけでなくて、私立の幼稚園、こども園等に対しても、これを徹底させることを、どうやっていくか、これからの課題だと思いますけれども、しっかりこれをやったならば、結果が出ると思います。

このことについて、しっかり取り組みましょう。

○市長（齋藤正美君）　ほかにございませんか。

教育長、お願いします。

○教育長（宍戸健悦君）　学力のところで、小学校の２年生の算数が非常に落ちているという、実際は２年生にテストをしましたが、１年生の内容だというお話がありました。小学校１年生

のときに学力、学習の土台がそこでできる。そこのところがなかなかしっかりできない。積み重ねの土台、その辺ができないということがあったので、低学年の学びの充実もそうですし、今の体力と併せて考えると、やっぱり、幼児期から小学校への流れの中で、しっかりとした学ぶ土台、そういうものを家庭の協力も得ながら、学校でも併せてしっかりとやっていくということが、これから算数・数学を伸ばしていくためにも非常に重要なことだなというふうに思ったところです。

○市長（齋藤正美君）　必要ですね。

今、教育長がおっしゃるとおりでございまして、小学生になったときに、いかに集中力を発揮できるか、その集中力を、幼稚園、保育所の時代に、そのときにしっかり植え付けるということが大事なんですよね。それをどうしていくか。

一つの例として、ひばり幼稚園は、私が導入させたんだけれども、サントレ教育というようなこともありますし、いろんな手段があるかと思います。

これから、幼児教育を充実させることが、小学校、中学校の学力向上につながるということ、そのカリキュラム等をいろいろ今後検討して、実践するようにやっていきましょう。

大和委員、お願いします。

○委員（大和千恵君）　学力のところで、詳細の結果は各学校にも行っているのですか。

（「はい、行っております。各学校ごとの結果も」との声あり）

○委員（大和千恵君）　私も子供の算数の問題を一緒に解いたことがあるんですけれども、この最後の文章問題、結構難しくて、大人でも言い回しが難しかったり、なかなか解くのに苦労するようなこともあって、それも練習なのかなと思うんですけれども、やっぱり計算問題みたいにある程度練習すればできるようになるものと、文章問題のように考える力というか、応用するところが、今欠けているところなのかなというのを、この資料を見て感じました。実際、私も、今、地元の学校に行って、子供たちに運動を教えたりしているんですけれども、何回もやったことがあることに対しては、子供たちは、簡単にやるんですけれども、初めてのことに触れたときに、一歩下がってしまうというか、やってみようとなる子もいれば、とまどってしまう子供も結構いるので、そういうところで、初めて見る問題に対しての適応する部分が、もしかしたらちょっと低いのかなと思っています。体力のほうにも通じるんですけれども、何か、困難が来たときに立ち向かう力というか、そういうのが少し足りない部分なのかなというふうに思っていて、いろんなことが起きたときに、対応していく力、勉強でもそうですけれども、日常的に、社会に出ていっても、そういう部分がどうしたら身につくのか、難しいことにチャ

レンジしていく力を養っていければいいのかなと思いました。

テストで、課題が明確になっているので、日常の授業だったり、宿題で、個別に不足しているところに宿題を出すというところまでは、各学校は手が回っていないと思うので、次の段階で行ければ、もっと学力向上していくんじゃないかなと感じました。

体力のほうは、右半分のほうが全国平均よりも低いということで、昨日、飯野川小学校の隣の幼稚園で運動会の総練習のお手伝いをしていたんですけれども、業間の時間になると、全校児童が出てきて、先生方もみんなで校庭を急に走り出して、各学校でいろいろと業間の時間に体を動かすような取組を考えてされているというのを感じました。

私も石巻に来てから、車を使う機会がすごく増えまして、歩くという機会がすごく減っていて、子供たちだけでなく、大人もあまり歩く機会がないというのを感じていて、統合などでバス通学の生徒も増え、歩いて通学する生徒も減っていることもあって、やはり、基本の体力が落ちているというのは感じています。ただ走らせたりではなく、鬼ごっこなどですごく体力はついてくるので、子供たちも楽しみながら体力がつけられる。お家に帰ってしまうと、集まって遊ぶということも少なくなってきていて、雄勝では、週に１回なんですけれども、放課後に子供たちを集めて運動させたり、鬼ごっこさせたりしている。各学校で、なかなか全部の学校でというのは難しいかもしれないけれども、家に帰ってしまうと、みんなゲームをしてしまうので、放課後にみんなで昔みたいに外で遊ぶような機会がつくれたらいいのかなと思っています。

○市長（齋藤正美君）　学校教育課長、今のお話をしっかり受け止めてください。

○学校教育課長（福田光一君）　大和委員さんがおっしゃるように、教員の学力に対する意識として、安心できなくて、基礎基本を徹底しないと駄目なんじゃないかという不安があって、宿題を出して、課題を出してという傾向がまだあります。やはり、やり方を教えますけれども、そこから先は子供たちが自分たちで考えてやる必要があると思うので、それは日々の授業で積み重ねるしかないと思います。

１足す１を教えるのではなくて、１足す１をどうやってやったかというのを説明させる力を授業の中でやっていこうというふうに、今、取り組んでいるところで、徐々にそういう授業スタイルに変わっていっている先生たちがいますので、これをもっと広めていきたいというふうに思っています。

それから、体力の面にしても、やはり同じで、子供たちの遊び方が大分変わっていますので、集まってもゲームを持って集まって、そこで体を動かさずゲームをしているような姿がありま

す。何とか、体を動かす楽しさというのを味わわせて、自分たちで主体的に動けるような子供たちにしていきたいなというふうに思っています。

○市長（齋藤正美君）　よろしいですか。

（「はい」との声あり）

○市長（齋藤正美君）　杉山委員、お願いします。

○委員（杉山昌行君）　まず、教育はお金がかかるということを思っているんですけれども、日本もここ10年ぐらい、防衛費が右肩上がりなのに文教費は右肩下がりみたいな先進国でも予算に占める教育・文教費が最下位みたいなことを国がやっているんですが、恐らく、秋田とか学力の高い県や市の総予算に占める文教費の割合は高いんじゃないかなと思うんです。石巻はどうなのかなと、比較してみたときに、学力の高い県や市はお金をちゃんとかけているんじゃないかなと思うんです。

やはり人件費も含めてですけれども、先生方のサポートだったり、教育だったり、そういうところにもっとお金をかけなきゃいけないと思うし、今、石巻は教員不足ですよね。明らかに人材不足なので、この学力向上プランはすばらしいんですが、多分成果も上がっているんでしょうが、その分先生方に負担がどんどん行っていると思うので、やっぱり人材育成や人材補強ということを考えてあげないと、長続きしないんじゃないかなと思うので、お金の話、皆さん言いづらいことだと思うので、私が言わせていただきましたが、予算をもっとつけてあげて、人をきっちり育てるという部分をやっていかければいけないんじゃないかなと思いました。

○市長（齋藤正美君）　まさしくそのとおりでございます。

教育長、お願いします。

○教育長（宍戸健悦君）　今、さらに人材不足があって、例えば産休で休んだ方の補充というのも、すぐにはなかなか来られない状況が、現実的にはありますので、そういう意味で、日本全体がいろんなところで人材不足というか人手不足になっている部分もありますので、長い目で計画を立てて、人材についても育成して、確保していかなければならないと思います。

○市長（齋藤正美君）　そうですね、分かりました。

よろしいですか。

（「はい」との声あり）

（２）不登校児童生徒の心のケアについて

○市長（齋藤正美君）　次に、（２）として、不登校児童・生徒の心のケアについてを議題と

させていただきます。

学校教育課長、説明をお願いいたします。

○学校教育課長（福田光一君）　では、２の不登校児童・生徒の心のケアについて説明いたします。

本日お配りした資料２で説明させていただきます。

まず、１ページの（１）の過去５年間の状況の表を御覧ください。令和３年度の正式な数値がまだ出ていませんので、令和２年度分までで説明いたします。

令和２年度は、不登校の出現率が下がっており喜ばしいことではありますが、この年度はコロナの影響で休校期間があったことも要因となっていると思われます。ちなみに、休校がなかった令和３年度は、速報値ですが、石巻市の出現率は増加傾向に転じています。

また、（２）は令和３年度の速報値を使ったデータですが、中学校に入学する小学校数で不登校の出現率を比較してみました。小学校３校から１つの中学校に入学する学校の不登校出現率が高いことが特徴の一つと言えると考えています。

次に、不登校の原因についてですが、２ページを御覧ください。

このグラフは、全国学力・学習状況調査の質問の結果になります。端数の関係でトータル100％になっていないところもありますが、国のデータをそのまま使用しております。

石巻の子供たちの答えを見ると、左上の「学校に行くのは楽しい」と答えた児童・生徒は全国の数値を下回っており、ちょっと残念な気持ちになっております。

右上、「将来の夢や目標を持っていますか」という質問については、中学生は全国値を上回っていますが、小学生も「どちらかといえば」まで含めて全国値を超えていますので、これまでの志教育の成果が少し表れているというふうに思っています。

その下の「授業の内容はよく分かりますか」という質問に対して、中学校の国語以外は全国値を下回り、特に、算数・数学の授業に対して「当てはまる」と答えた小・中学生は全国より低く、やはり、算数・数学の学力差にも表れているというふうに感じております。

このような実態を踏まえて、具体的に取り組んでいることを説明いたします。

４ページの（２）になります。

「学校に行くのは楽しい」「授業がよく分かる」と感じている児童・生徒が全国より少ないことから、まずは、勉強のつまずき解消に力を注ぎ、さらに、人間関係を重視した学級づくりや授業づくりに取り組んでおります。また、小・中の連携を図って、環境の変化にも対応できる力を身につけさせたり、家庭や関係機関と連携し、情報を共有することで子供たちを支援す

る体制を図っております。しかしながら、不登校の増加傾向への歯止めが効かない状況が続いており、悩ましい状況なのが正直なところであります。

不登校の児童・生徒について、学校に登校することが不登校改善の目的になっていた時期もあります。しかし、最近は、学校への登校が最終目的ではないとも言われており、ますます対応が多様化しています。

このような時代の流れや現状を踏まえて、教育支援センター、石巻では石巻市学びサポートセンターの設置の計画を進めております。これまでの適応指導教室から子供たちの個別最適な学びの実現のために居場所としてセンターを機能させたいと思っております。センターでは、学習支援、訪問支援、相談支援の３つの機能を生かして、将来、子供たちが社会的に自立できるよう支援を行ってまいりたいと考えております。

また、フリースクールやタブレットを使った支援など、あらゆる形で学校以外での学びの場を確保して、誰一人取り残さない学びを実現させたいと考えております。

以上です。

○市長（齋藤正美君）　ただいまの説明について、御意見、感想、質問など、ありましたらお願いしたいと思います。

阿部委員、お願いします。

○委員（阿部邦英君）　今、学校教育課のほうから御説明ありましたけれども、非常にいい取組をしていると思います。学校に行くのが楽しい、そう思う子供たちがいっぱい出てくれば、不登校というのは当然のことながら減っていくんですけれども、そのためにはどうしたらいいかというのを、説明の中でありましたけれども、やはり、授業が分かるとか、それから、友達と遊ぶのが楽しいとか、そういうのが一番大事なのかなというふうに思っています。

それで、今度、センターを計画しているというお話がございましたけれども、このセンターと学校と、それから、スクールソーシャルワーカーとの連携ですね、いかにして子供たちを不登校にさせないかと、あるいは、不登校になっても学校に戻らなくてもいいという話がありましたけれども、子供たちは戻りたいと思うことが多いと思うんですよね。無理することはないんですが、スクールソーシャルワーカーさんとの連携で、子供たちの心を学校のほうに向けさせるというような努力も必要というふうに感じております。

３ページのケース会議と書いた一番下のところ、市民相談センターとなっていますが、これは、総合相談センターのことですか。

○市長（齋藤正美君）　市民相談センターでなくて総合相談センターですよね。

（「はい」との声あり）

○市長（齋藤正美君）　生活困窮者で学校に行きたくても行けないという子供たち、今、非常にそういう事例があろうかと思います。そういう子供たちを救う、それも不登校を少しでも減らす要因にもなろうかと思いますので、その辺を教育長といろいろお話はしているんですが、これからそういう関係の皆さんに集まっていただいて、意見交換をしながら、前へ解決策を見いだしていきたいと、そういう面からも考えております。

１つの例として、伊勢さんという方なんですけれども、しゅろハウスっていうのを自分で開設して、そこに、家庭に帰りたくない、それから、家庭崩壊している子供たちをそこに寄せて、そこから学校に通わせている、そういう方もおられるし、いろんな取組が石巻でされているというのは、本当に心強いなと思っています。

ですから、その辺を我々も含めて、教育委員会を含めて、全体として、そういうのをしっかりと認識をしながら、行政でやれるべきことはやっていきたいと思います。その辺の取組を、新しい取組として持っていきたいところです。

ほかにないですか。よろしいですか。

（「はい」との声あり）

○市長（齋藤正美君）　それでは、この不登校児童を少しでも減らすようにする、何か石巻の小・中学生は仲間を大事にするとか、仲間に寄り添うというか、何かいい標語みたいのないかね。石巻の小・中学生は友達を助けるとか、そして、自分のやるべきことはしっかりと友達のために尽くすというか。何かそういうお互いに心が通い合う、いざとなると、実はと言った標語だけでも変わってくると思うんだけれども。

そういうのも、今後、考えていきましょう。

（３）その他

○市長（齋藤正美君）　次に、その他に入りたいと思います。教育委員の皆様から、何かお話ししたいことがございましたら、お願いいたします。

よろしいですか。

（「はい」との声あり）

○市長（齋藤正美君）　各部長・課長から何かありませんか。

（「ありません」との声あり）

○市長（齋藤正美君）　事務局長、ございませんか。

○事務局長（石井透公君）　ございません。

○市長（齋藤正美君）　それでは、本日は、「学力・体力向上対策について」、それから、「不登校児童・生徒の心のケアについて」、皆さんのお考えを伺うよい機会となりました。

今後も、総合教育会議を通じまして、教育委員会との意思疎通を図っていきたいと思っております。よろしくお願いしたいと思います。

やはり、現場を知ること、教育委員会の皆様におかれましても、しっかりと現場を知ること、これを徹底していただいて、現場の声をいかに吸い上げて、それを実践していくか、それが課題かと私は思っております。しっかり、共々に、私も含めて取り組んでいきたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

では、以上で協議・調整事項を終了し、事務局に戻したいと思います。

○総務課長（木下智由君）　それでは、以上をもちまして、令和４年度第１回石巻市総合教育会議を閉会いたします。

大変お疲れさまでした。

午後　４時４７分閉会

石巻市長　齋　藤　正　美

教　育　長　宍　戸　健　悦